

佳作

みんなのやさしさにふれて

埼玉県さいたま市立高砂小学校六年 小林 瞭太

ぼくは、四年生の三学期に、この高砂小学校にきました。六年生になった今、転校した当時、気づかなかった、みんなのやさしさにだんだん気づいてきました。もしも、転校してすぐの時、みんなのやさしさがなかったら、五年生、六年生になって、楽しく学校生活が送れていなかったかもしれないと感じるようになりました。前の学校では、マイナス思考で、いつも特定の友達とかしか話さない方でした。もちろん、前の学校で成長できた部分もありました。責任感や努力することの大切さなどを学べました。しかし、考え方はマイナスだったのです。しかし、高砂小学校にきて、少しずつ考え方をプラスに変えていけました。では、考え方をプラスに変えていたエピソードを紹介します。

まず一つ目は、転校した日のことです。その当日

の朝はきん張しありませんでした。その日、高砂小学校に着いて、聞いたこともない校歌を聞いて、クラスに着いて、自己紹介をして、一時間目が終わった休み時間、男子が多かったのですが、

「何かスポーツしてんの？」

などと、ぼくの机の周りに来て、いろいろ聞きに来てくれました。それが自分にとって本当にうれしかったです。

次に二つ目は、二分の一成人式の前に、クラス全員にメッセージカードを送ることがあって、その時、ぼくに来たメッセージの多くは、「学校慣れた？」というメッセージでした。ぼくは、気づかなくてくれていることに気づき、さらにうれしくなりました。

最後に三つ目は、歓げいパーティを開いてくれたことです。自分のために開いてくれることの立場にいざ立ってみると、うれしかったり、感動したり、もうすごかったです。このことで、さらに元気づけられ、前向きになりました。

この三つのエピソードは、三学期のたった三ヶ月のうちの話ですが、この三つの出来事のおかげで五、六年生とがんばってこれてると思います。転校

して一年間は、初めてのこともあり不安もありましたが、この不安がのぞかれて、半年ほどたった今、このことに気づけました。これから、中学になっても、転入生はいると思います。その時、自分には何ができるのか、この経験を活かしていきたいです。そして、この感動を忘れないようにしたいです。